



駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター

駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターです。今回は、平成18年以降自然再生モデル事業の実施構成メンバーからの依頼を受け、継続して受け入れている、海外ボランティアの今年度の活動について紹介したいと思います。

今年は、ラトビア、ロシア、ドイツ、ベトナム、メキシコ、中国、台湾、シンガポール、日本から集まった若者たち（17から30歳）、延べ17名（長期6名、短期前半6名、短期後半5名）に、7月27日から9月14日までのうちの10日間、森林作業を手伝って頂きました。

また、渡島、檜山森林管理署から、若手職員の参加もあり、英語に触れ、他国の食品を食すなど異文化交流も行いました。

### 地拵、植付

大沼地域自然再生等モデル事業地内のカラマツ林で間伐後の上層木のま

ばらな箇所では地拵をし、ナラやイタヤなどの苗木をカミネツコンによる植付を行いました。

カミネツコンづくりというパーパークラフトが特に楽しかったようです。



植付箇所の地拵

### 草刈り（下刈）

自然再生等モデル事業地内の作業道や歩道などの草刈りを実施しました。炎天下での作業でしたので、時間とともに疲れを見せていきましたが、しっかり草刈りを実施していただいたおかげで、後の自然再生等モデル事業関連の植生観察や間伐の実行の際の移動に支障がなくなり、大変役立ちました。



事業地内の歩道の草刈り

### 間伐（除伐II類）

当センターの森林環境教育の場として使っている軍川のトドマツ人工林（34年生）で、間伐体験をしてもらいました。



鋸を手に間伐

10cm程度の植栽木のうち形状の悪いものや成長を阻害された木などを伐採しました。

普段使うことのない鋸に興奮しつつ楽しんで伐倒していました。

### 登山

当センターの名前にもある駒ヶ岳に登りました。ワークキャンプのメンバーたちが滞在している宿舎からも見える山で、晴れていればもっと感動したのでしょうか、山頂に着いたときには雲の中でした。

山頂での休憩中に、森林ボランティアの実態、地域の人が参加しないわけについてなどの素朴な疑問の返答に苦慮する場面もありましたが、森林ボランティアが初めてという中、森林ボランティアを理解しようと疑問を投げかけ、森林作業に一心に取り組む姿勢に意識の高さを感じました。



駒ヶ岳登山（山頂にて）